

“Y2K Best Practices for the FX market”に関する検討結果と留意点

1. 検討結果

各委員に対し、NY 外為委が作成した“Y2K Best Practices for the FX market”の共同発表者となるか、エンドースするか、あるいはいずれも行わないかについて、意見を募集したところ、本 Best Practice は、クリアリング・バンクや中央銀行で Y2K 問題が生じた結果、決済が不履行となった場合(Y2K Events)に、close-out に至るまでの要件、手順を具体化したものとして有益であると考えられるため、共同発表、あるいは、エンドースすべきとの意見が多数を占めました。しかしながら、国内円資金取引への影響等を考えると、積極的に支持表明することには慎重に臨みたいとする意見もあったため、意見調整した結果、共同発表者として名前を連ねることはしないが、エンドースはすることとなり、その旨を NY 外為委員会に連絡しました。

2. 留意点

本 Best Practice は、強制力・拘束力は全くなく、採用するか否かはあくまで当事者間の交渉で決定されます。なお、実務上の問題点として、以下の事項を指摘する意見がありましたので、適用に当たってはご留意下さい。

- ① 欧州通貨や米ドルの決済で問題が発生した場合、時差の関係でアジア勢にとっての waiting period は実質2日間となる。さらに、欧米側から何ら通知がない状況でアジア側が T 日に外貨決済 fail を発見した場合、アジア側は同日先ず欧米側に対して Y2K Events か否かを確認することになるため、問題発生時点が T-1 日(欧米側で実際に決済 fail が発生した日)とされると、waiting period は実質 1 日のみとなる。
- ② 営業日の終了時刻は一律 17:00 とされているが、各通貨の決済システムのカットオフ時刻とした方が良いのではないか。
- ③ 通貨スワップ等、複数のキャッシュフローを持つ取引については、Termination ではなく遅延利息等による compensation を適用する方が望ましいのではないか。

以 上